日野市のごみ減量について

1. 市の環境行政

2. 市のごみ減量施策の経過

◆第1次ごみ改革（ごみ戸別収集）

◆第2次ごみ改革（プラごみ分別収集）

3. 今後の課題・展開

令和元年7月　SDGs未来都市に選定（都内自治体初）

SDGs 未来都市選定証

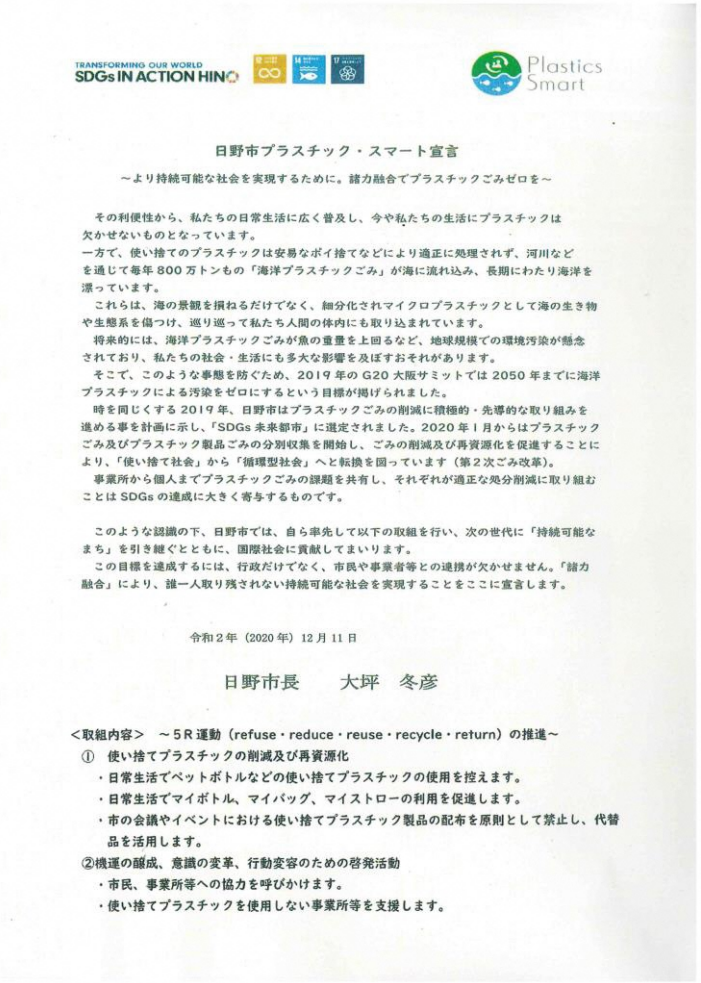
東京都日野市

貴市の提案は、我が国におけるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成に貢献する優れたものと認められますので、ＳＤＧｓの達成に向けた今後の取組を奨励し、ここに貴市がＳＤＧｓ未来都市であることを証します

令和元年７月１日

内閣総理大臣 安倍晋三

令和2年12月　プラスチック・スマート宣言



TRANSFORMING OUR WORLD SDGs IN ACTION HINO

Plastics Smart

日野市プラスチック・スマート宣言

～より持続可能な社会を実現するために。諸力融合でプラスチックごみゼロを～

その利便性から、私たちの日常生活に広く普及し、今や私たちの生活にプラスチックは欠かせないものとなっています。
一方で、使い捨てのプラスチックは安易なポイ捨てなどにより適正に処理されず、河川などを通じて毎年800万トンもの「海洋プラスチックごみ」が海に流れ込み、長期にわたり海洋を漂っています。
これらは、海の景観を損ねるだけでなく、細分化されマイクロプラスチックとして海の生き物や生態系を傷つけ、巡り巡って私たち人間の体内にも取り込まれています。
将来的には、海洋プラスチックごみが魚の重量を上回るなど、地球規模での環境汚染が懸念されており、私たちの社会・生活にも多大な影響を及ぼすおそれがあります。
そこで、このような事態を防ぐため、2019年のG20大阪サミットでは2050年までに海洋プラスチックによる汚染をゼロにするという目標が掲げられました。
時を同じくする2019年、日野市はプラスチックごみの削減に積極的・先導的な取り組みを進める事を計画に示し、「SDGs未来都市」に選定されました。2020年１月からはプラスチックごみ及びプラスチック製品ごみの分別収集を開始し、ごみの削減及び再資源化を促進することにより、「使い捨て社会」から「循環型社会」へと転換を図っています（第２次ごみ改革）。
事業所から個人までプラスチックごみの課題を共有し、それぞれが適正な処分削減に取り組むことはSDGsの達成に大きく寄与するものです。

このような認識の下、日野市では、自ら率先して以下の取組を行い、次の世代に「持続可能なまち」を引き継ぐとともに、国際社会に貢献してまいります。
この目標を達成するには、行政だけでなく、市民や事業者等との連携が欠かせません。「諸力融合」により、誰一人取り残されない持続可能な社会を実現することをここに宣言します。

令和２年（2020年）12月11日

日野市長　大坪　冬彦

＜取組内容＞　～５Ｒ運動（refuse・reduce・reuse・recycle・return）の推進～
① 使い捨てプラスチックの削減及び再資源化
・日常生活でペットボトルなどの使い捨てプラスチックの使用を控えます。
・日常生活でマイボトル、マイバッグ、マイストローの利用を促進します。
・市の会議やイベントにおける使い捨てプラスチック製品の配布を原則として禁止し、代替品を活用します。
②機運の醸成、意識の変革、行動変容のための啓発活動
・市民、事業所等への協力を呼びかけます。
・使い捨てプラスチックを使用しない事業所等を支援します。

東京市町村自治調査会発表

「多摩地域ごみ実態調査」

一人一日あたりのごみ量

・令和5年度　1位

	自治体名
1　位	日野市
2　位	小金井市
3　位	東大和市

【環境省発表】全国一般廃棄物状況調査結果

一人一日あたりのごみ量

・令和2・3年度　全国ベスト２位

（人口10万人以上～50万人未満都市）約250自治体

・令和4年度　全国１位

	自治体名
１　位	日野市
２　位	掛川市
３　位	小金井市

（平成11年度）多摩地域（31市町村）

- 不燃ごみ量　⇒　ワースト1位
- リサイクル率　⇒　ワースト1位
- 1人1日当たりごみ量　⇒　ワースト4位

多摩地域のごみリサイクル率

東京市町村自治調査会発表

日野市がワーストワン

財政難・ダストボックス内の分別進まず

調査会は九〇年度から、多摩地域三十一市町村でごみ量などを調べている。九四—九六の三年度のごみの総量は四十二万八千トン台で、横ばい状態が続く。総資源化率は毎年上昇を続け、九六年度は一八・七％で前年度より一・六ポ増えた。この結果、最終処分量は前年度より約二万七千トン少ない十七万七千四百六十八トンとなった。

自治体別では、総量は人口が最も多い八王子市が十七万四千三百四十九トンで一番だった。一人あたり一日のごみは、事業所の集まる武蔵野市が千四十九グラムで最多だった。

総資源化率が五年連続で一番高かった多摩町は、不燃ごみと粗大ごみは不燃物資源化施設で、シルバー人材センターのお年寄りが、再利用できるビンや缶、金属などを選別するという。

ハードより市民意識が問題？

余りと少ないので、市民のリサイクルへの意識も高まりやすく、手作業で分別できる量になる」と話す。

一方、日野市クリーンセンターでは、総資源化率が一番低かった理由として、各所に設けている約七千個の「ダストボックス」をあげる。いつでも捨てることができて、中身も見えないので、減量と分別がなかなか進まない。そのため、一日一人あたりのごみ量は千十九グラムで四番目に多く、総量も前年度から七百六十トン増えた。

さらに、財政難で再資源化の設備が整わず、不燃物ごみからは鉄やアルミを再利用するのが精いっぱいという。

同市クリーンセンターリサイクル課は「ダストボックスの撤去は、簡単にはできない。再資源化施設を建設する見通しがない。厳しい状況だ。市民のごみへの意識を高めるしかない」と話す。

こんにちは市長です

ごみ問題は非常事態だ

日野市長　馬場弘融

市民の皆様こんにちは。今回はごみ問題について、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

先日、日の出町を訪問し、わたしたちの出すごみ焼却灰等を埋める「谷戸沢処分場」を見てきました。もうほとんど満杯です。そして、そのすぐそばで「二ツ塚処分場」の建設工事が行われています。まるで巨大なダムの建設工事のようです。

この二つの処分場建設に要した費用は、およそ600億円を超える、ということ。ごみを埋める場所を作るためだけに、こんなに巨額の費用がかかっているのです。しかも、近隣地域の地下水を汚すことがあってはいけません。

加えて、日野市では「谷戸沢処分場」に持ち込むまでに、ごみを収集し燃やしています。その費用も忘れてなりません。平成8年度には約20億円かかっています。

さらに問題があります。ごみを燃やすときに「ダイオキシン」等の有害物質が排出されるというのです。

す。市民の福祉向上や、教養を高めるための支出ならいざ知らず、何とももったいない話です。

要するに、大量に集めて燃やす現在のゴミ処理方式は、費用的にも健康保持や環境保護の点からも、再考の時期に来ているのです。ではどうするか。

ごみを［illegible］分別収集を徹底す［illegible］ての商品にリサイ［illegible］義務づける。そし［illegible］くは「ごみゼロ社［illegible］指さなければなり［illegible］

今や行［illegible］ではありません。［illegible］さを乗り越えるに［illegible］ひとりの市民の皆［illegible］協力が必要です。リ［illegible］や分別収集を徹底［illegible］い、ごみの大幅な減［illegible］していずれ現在の［illegible］ス収集」から「袋［illegible］へと進まなければな［illegible］。

行政も精一杯努力しますが、市民の［illegible］力もまた問われて［illegible］ころです。どうかご理解ご協力を。

「ごみ非常事態宣言」

全国１位までの道のり（その１）

平成12年10月「第１次ごみ改革」

◆平成11年度（多摩地区で）◆

- 不燃ごみ量　⇒　ワースト1位
- リサイクル率　⇒　ワースト1位
- １人１日当たりごみ量　⇒　ワースト4位（1,042g/人）

◆平成13年度◆

1,042⇒**841g/人**
（201g減量）

指定日に、自宅から有料で排出
排出者と量の明確化、排出量に応じた負担

有料指定袋

戸別収集

第1次ごみ改革実施にあたって

◆多摩地域で指定収集袋による有料化をしていたのは1市のみ
◆ごみの出し方の大幅な変更

市民への説明

行政と市民ボランティアが一体となって総力を挙げ丁寧に説明

●市長を先頭に、ごみ処理行政職員だけではなく全庁的な取り組み
●環境問題に関心のある市民ボランティアとの協働

説明会：**市内全域で600回以上開催**
市長による駅前での街頭説明
を繰り返し実施

第１次ごみ改革説明会

まちもきれいになりました。

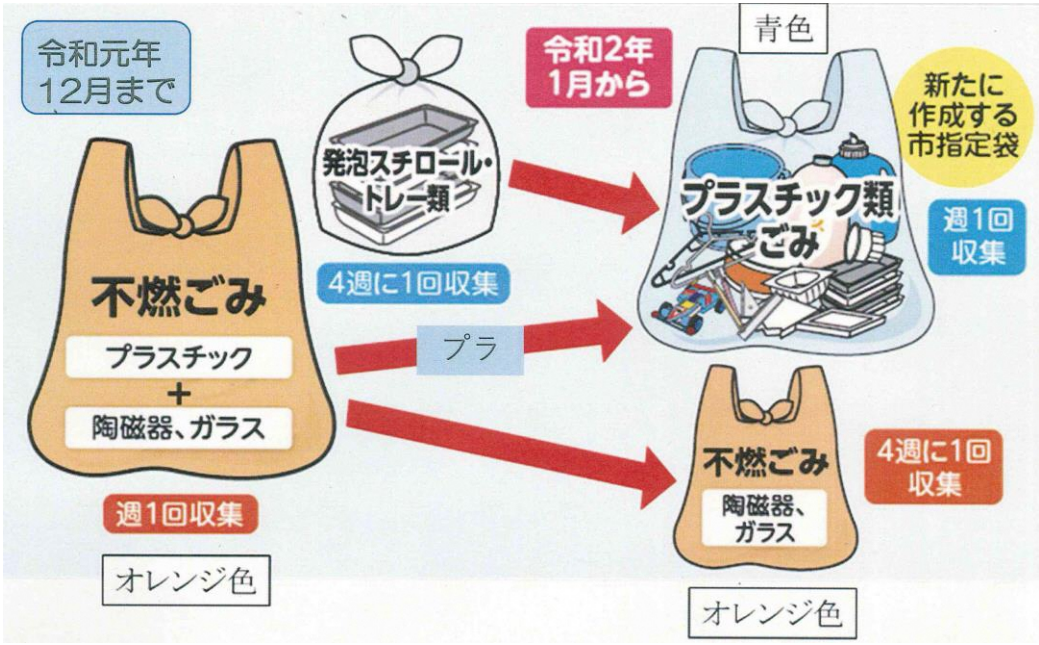
市民の行動により
実現できました！

全国１位までの道のり（その2）

令和2年４月「第2次ごみ改革」

【ごみ減量】：①マイバック運動 ②容器包装お返し大作戦 ③生ごみ減量
④食品ロス対策事業 ⑤リフューズ運動　等　の強化

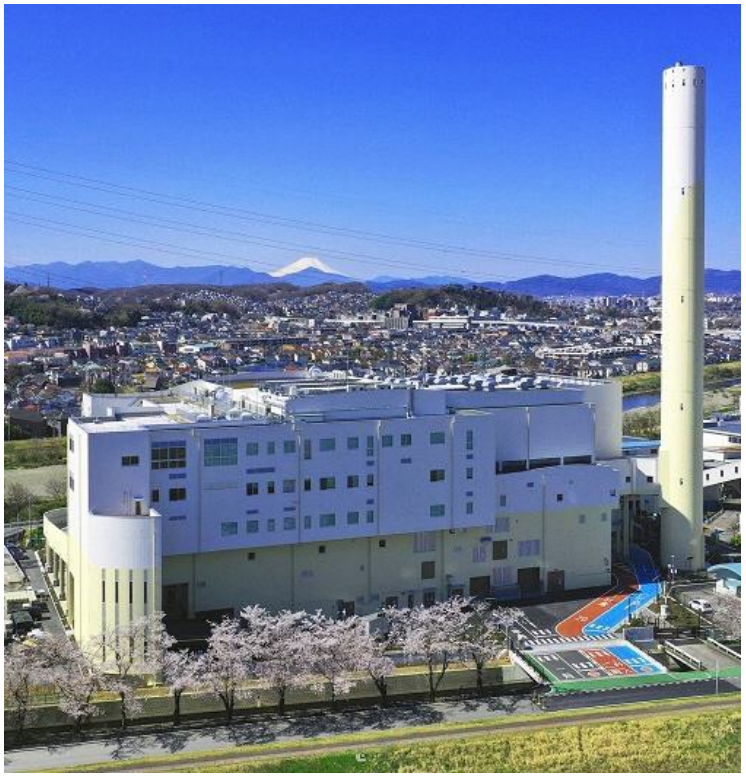
【資源化率向上】：①資源ごみ分別排出の徹底
（焼却ごみの削減）　②プラスチック類ごみの分別収集
（製品プラスチックと容器包装一括回収）



可燃ごみの共同処理

（日野市・国分寺市・小金井市）

浅川清流環境組合



3市ごみ減量推進市民会議

3市（日野市・国分寺市・小金井市）の市民等が参加して平成30年から活動しており、ごみ減量施策や情報発信等についての検討や意見交換等を実施。

委員の構成：学識経験者1人
市民委員12人(各市4人)
行政委員4人(各市1人、組合1人)

◆情報発信・環境学習グループ
小学生向け冊子を作成

◆ごみ減量施策グループ
食品ロス意識調査
（WEBアンケート）を実施

ごみの減量に向けた情報発信

- ごみ情報誌「eco(エコー)」
- 市公式HP・LINE
- ごみ分別アプリ　Iphone　Android　等

ごみの減量に向け最近開始した事業

- 「レジごみ袋」開発・販売
- 「ジモティースポット日野」

５つの「Ｒ」

Refuse（発生回避：持ち込まない）

Reduce（発生抑制：ごみを減らす）

Reuse（再利用：何度も使う）

Return（返却：販売店に返す）

Recycle（再生利用：資源として使用）

最後の最後は・・・

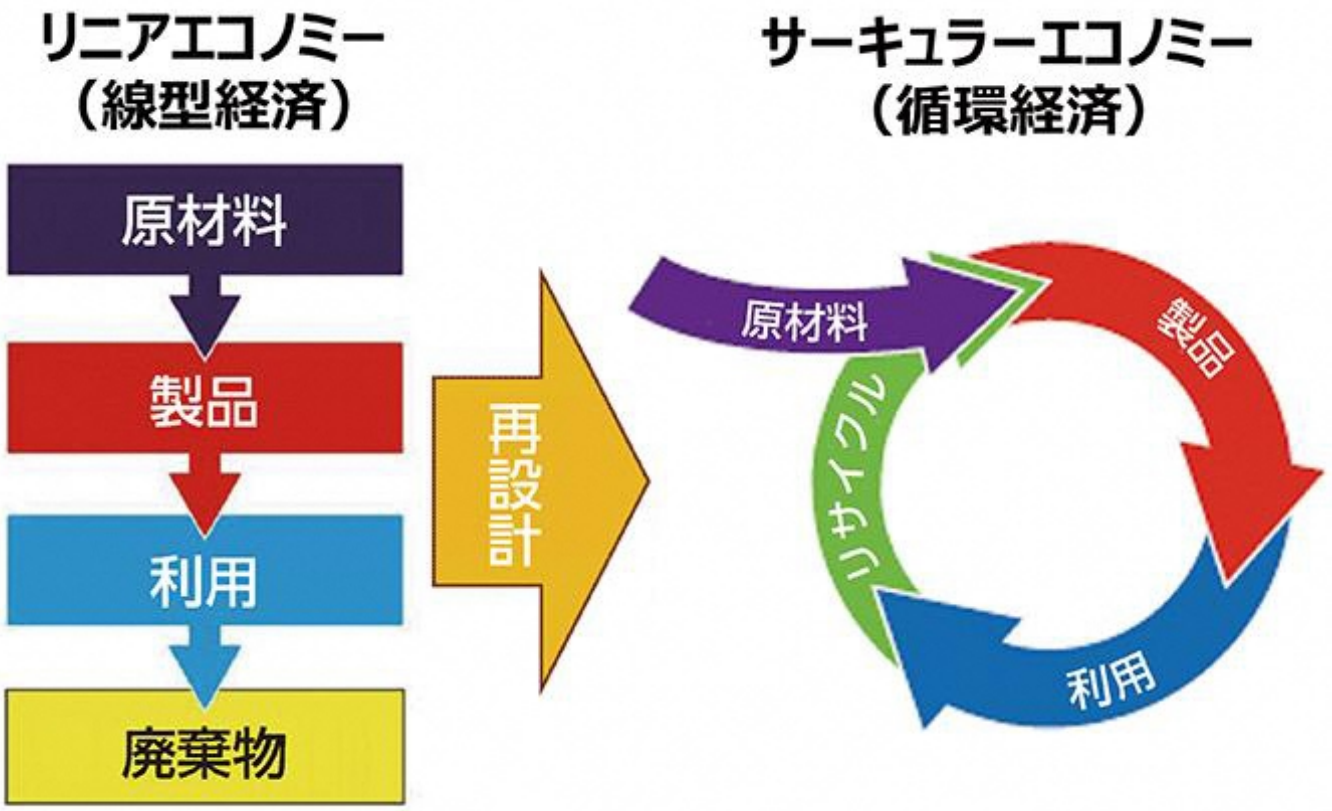
✧ ✧ ✧ 市民の行動

一般的な公共事業、例えば道路築造工事などでは、市民の皆様の理解を得て、その後、行政が工事を実施すれば事業は実現します。

しかし、**ごみの減量を進めるには、市民の皆様が市のごみ減量施策にご理解とご協力を頂き、日々行動を積み重ねて頂かなくてはなりません。**

市では今後も、市民の皆様への周知・啓発、及び行動しやすい環境づくりをさらに推進し、各施策を継続して展開していくとともに、「循環型のごみゼロ社会の実現」に向けて持続的に取り組んでいきたいと考えています。

サーキュラーエコノミーのすすめ



経済活動においてモノやサービスを生み出す段階から、リサイクル・再利用を前提に設計するとともに、できる限り新たな資源の投入量や消費量を抑えることで既存のモノをムダにせず、その価値を最大限に生かす循環型のしくみ